

令和2年度 中央区立 中央小学校 自己評価報告書

学校名： 中央区立中央小学校

所在地：中央区湊1-4-1

校長名： 野田 和敬

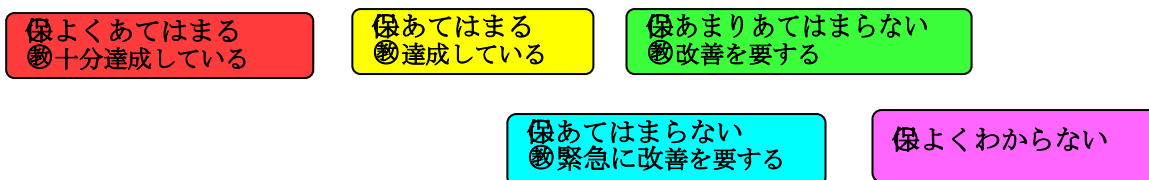
児童数 238名 学級数 10学級 教員数 16名 職員数 9名

本校では、「1 人と関わり合い、互いを思いやる心の育成」、「2 児童の学力向上」、「3 児童の体力向上」の3点を重点目標に教育活動を行っています。これらについて、教員の自己評価を行うとともに、令和2年12月に保護者、児童（4～6年生）による学校評価アンケートを実施しました。保護者学校評価アンケートの回収率は、95%でした。

1 重点目標の達成状況及び取組状況

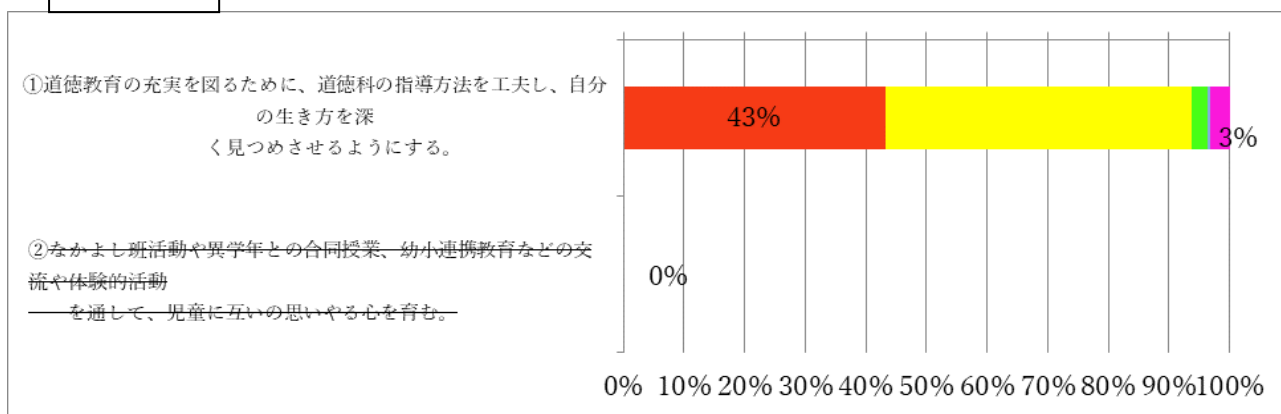
重点目標3項目の「よくあてはまる」「あてはまる」の評価の合計を平均すると、教員は75%、保護者は94%となりました。以下、重点目標ごとの結果です。

〈グラフ中の色と内容〉

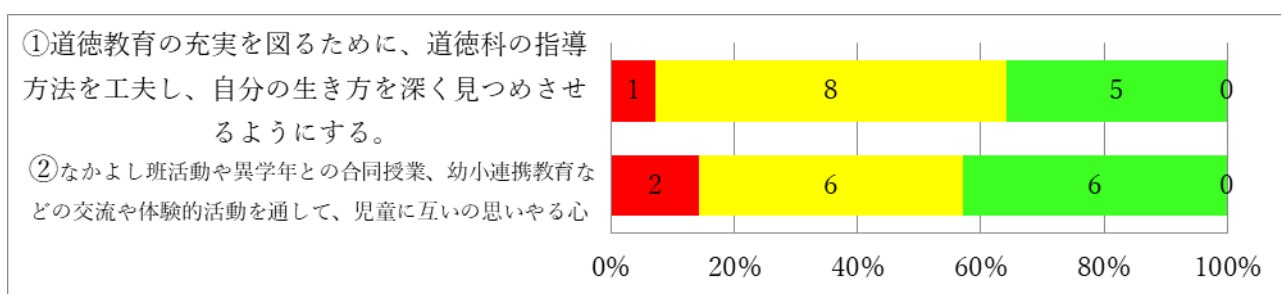


(1) 重点目標1「人と関わり合い、互いを思いやる心の育成」

保護者



教員



「人と関わり合い、互いを思いやる心の育成」の重点目標では、「よくあてはまる」「あてはまる」の合計で、1項目について保護者から90%以上と高い評価をいただいています。なかよし班活動などの縦割りによる活動や幼稚園との交流活動については、今年度は新型コロナウイルス感染症対応で実施しないものが多くあったことから、保護者アンケートの質問項目から外しました。どちらの項目も、教員の回答では、「十分達成している」が低いことから、子どもたちの思いやりの心の育成に向けて、活動の工夫をさらに進めていく必要があると考えます。

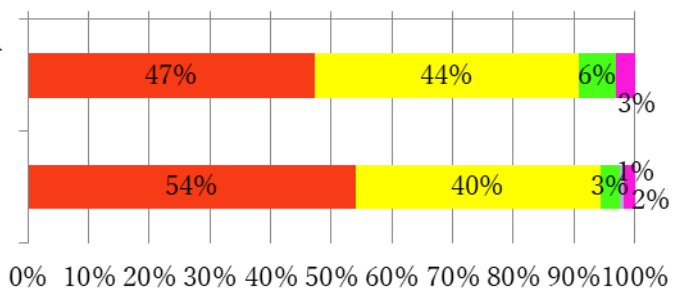
一方、一昨年度から始まった「特別の教科 道徳」を含めた道徳教育については、「よくあてはまる」との回答が43%となっています。昨年度より微増していますが、教員の回答も同様に高くないことから、学校全体での道徳教育について改めて重点を定め、道徳科の授業の充実も図ってまいります。また、「よく分からない」との回答が3%あることについては、道徳科の授業の理解を得られるよう保護者に説明していきたいと考えています。

児童アンケートでの「友達と仲よく生活していますか」については、97%が「よくあてはまる」「あてはまる」と答えました。ただし、「よくあてはまる」は、昨年度より3ポイント減っていることと、1%が「あてはまらない」と答えていることを重く受けとめていきます。また、「あいさつは元気よくしていますか」については、「よくあてはまる」「あてはまる」が86%にとどまり、昨年度より1ポイント減っています。友達との関係づくりについて、あいさつ運動を含め、今後も工夫と充実を図ってまいります。

(2) 重点目標2「児童の学力向上」

保護者

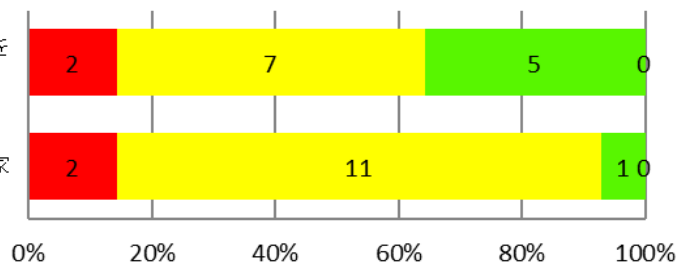
①学力向上プランに基づく授業を推進し、どの子どもも分かる授業を行う。



②チャレンジタイムや東京ベーシック・ドリルの活用、継続的な家庭学習により、児童に基礎・基本の学力の定着を図る。

教員

①学力向上プランに基づく授業を推進し、どの子どもも分かる授業を行う。



②チャレンジタイムや東京ベーシック・ドリルの活用、継続的な家庭学習により、児童に基礎・基本の学力の定着を図る。

学力向上プランに基づく授業を推進し、分かりやすい授業に努めてきているものの、保護者の評価では、「あまりあてはまらない」と「分からない」で8%となっています。教員の評価もあまり高くありません。児童へのアンケートで「授業の内容はよくわかりますか」については、97%が「よくあてはまる」「あてはまる」との回答で、「あまりあてはまらない」が3%です。校内研究を積み重ね、さらに授業改善に取り

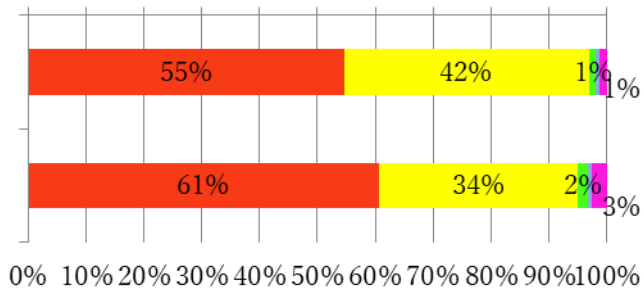
組むことと、保護者にもその内容について説明する機会をこれまで以上に増やしてまいります。

今年度の各種学力状況調査において、本校の4～6年の子どもたちの平均は、全国の平均よりおおむね高い傾向がみられましたが、区の平均より下がる学年、教科が見られました。今後も算数少人数授業などの指導体制や、チャレンジタイム（朝学習）、夏休み学習広場など基礎・基本の定着を図る取組を継続させ、家庭学習についても保護者と連携をとりながら、「基礎・基本の学力の定着」を図っていきます。

(3) 重点目標3「児童の体力向上」

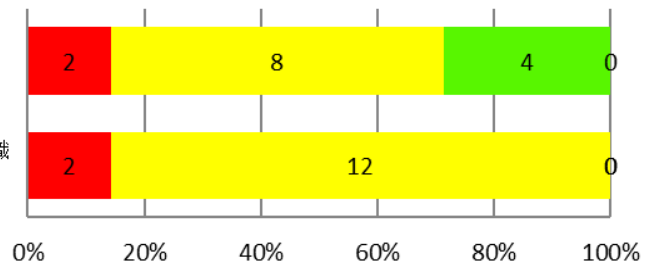
保護者

- ①「全校一輪車活動」や「コーディネーショントレーニング」を含め、体育的活動の充実により、児童の体力向上を図る。
- ②新型コロナウイルス感染症について理解し、感染防止への意識を高める。



教員

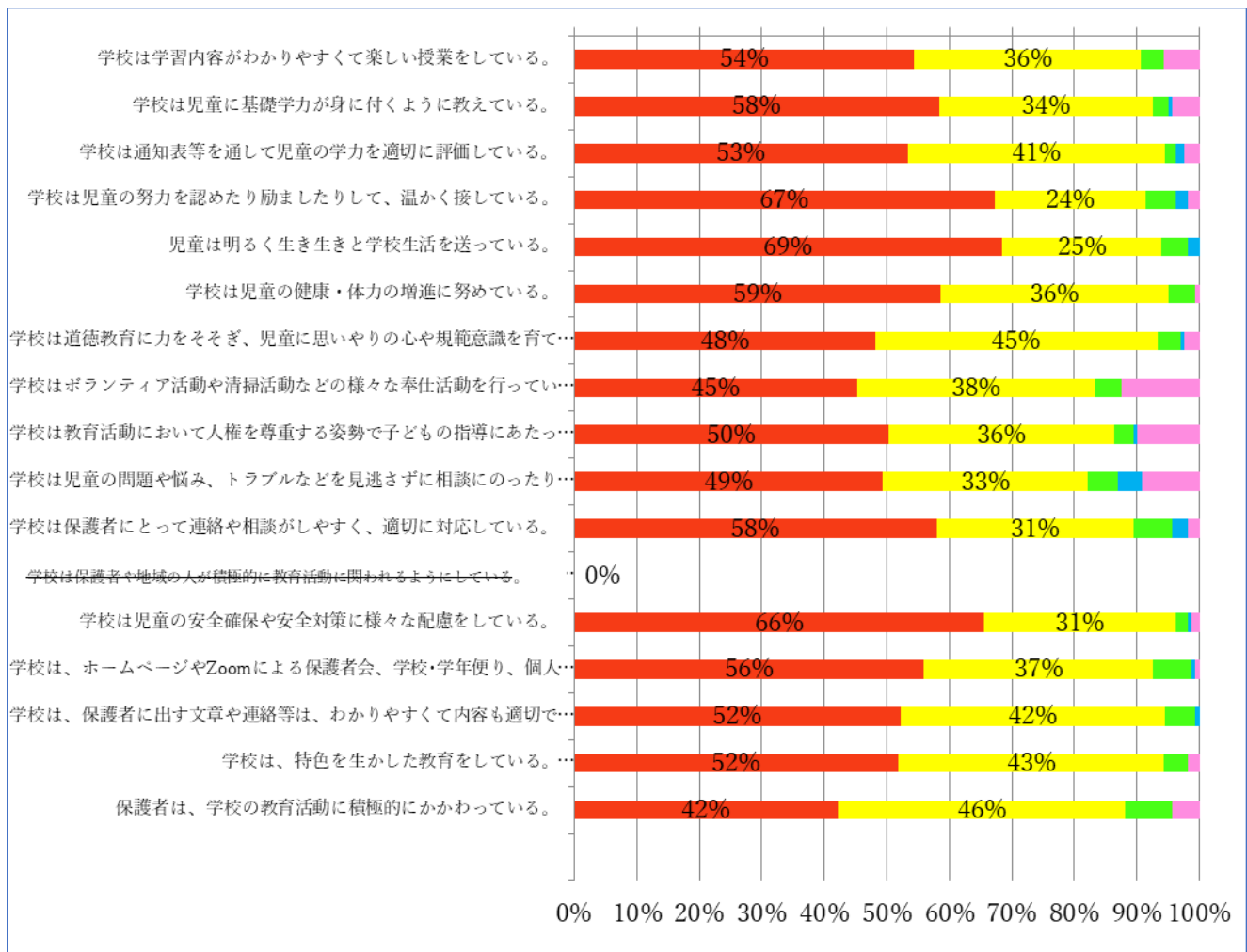
- ①「全校一輪車活動」や「コーディネーショントレーニング」を含め、体育的活動の充実により、児童の体力向上を図る。
- ②新型コロナウイルス感染症について理解し、感染防止への意識を高める。



「児童の体力向上」の重点目標では、90%以上の肯定的な回答をいただきました。本校の特色である全校一輪車活動を含めた様々な体育的活動に対してご理解をいただけていると考えます。また、児童のアンケート結果では、「自分の体力作りに取り組んでいますか」の項目に、81%の児童が「よくあてはまる」「あてはまる」と回答していて、昨年度よりも微増しています。体力づくりへの取組の成果が少しずつみられてきています。今後は、「あまりあてはまらない」「あてはまらない」と回答した児童への指導の工夫を考えていく必要があります。一人一人の子どもが自分の健康について考え、すすんで体力づくりに励むことができるよう体育的な活動をさらに工夫していきます。また、教員の回答では「十分達成している」があまり高くありません。日常的な体力づくりへの取組について工夫し、充実させていくことを考えていきます。

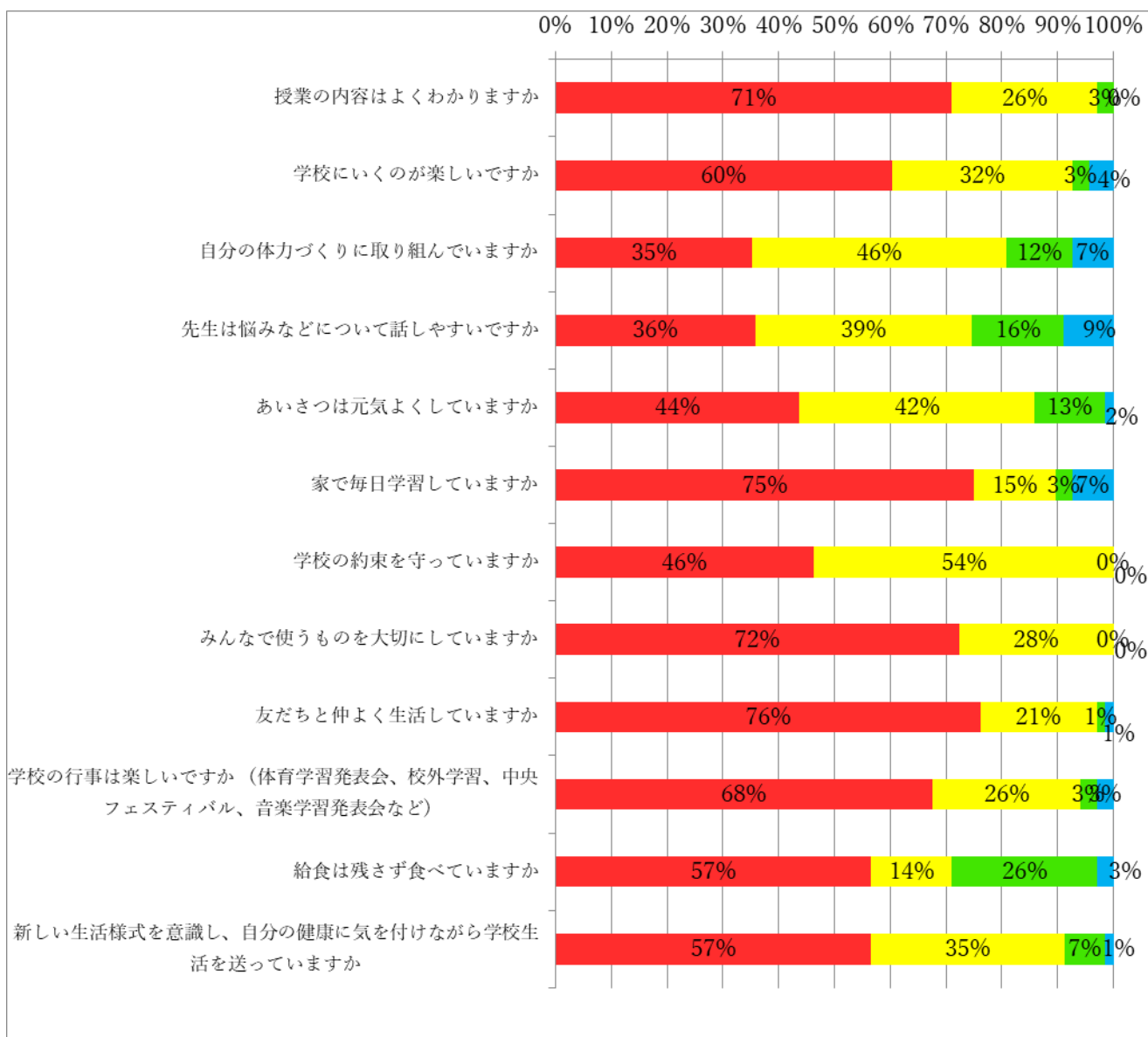
2 重点目標以外の評価における達成状況及び達成のための取組状況

<保護者アンケートによる評価>



全体の評価については、18項目中、新型コロナウイルス対策で実施がなかった2項目を除く16項目すべての項目で「よくあてはまる」「あてはまる」の評価が80%以上、11項目が90%を超えるという高い評価をいただきました。しかし、昨年度と比べると、11項目で微減となりました。「よくあてはまる」についても4ポイント程度低くなっています。今年度は感染症対策がとられた実態から、「学校は保護者や地域の人々が積極的に教育活動に関われるようにしている」の項目は、アンケートの回答をとりませんでした。保護者には、今後も学校だよりや各学年だより、学校ホームページなどで本校の教育活動についてご理解いただき、保護者会や個人面談、学校公開、学校行事などを通じて子どもたちの成長に向けて関わっていただけるよう呼び掛けていきたいと考えています。項目別に見ると、特に今年度の取組について、「学校ホームページやZoomの活用」に関する項目で93ポイントの肯定的な評価がされました。感染症対策から臨時休業中の朝の会や保護者会をZoomによりオンラインで実施しました。中央区では、11月よりタブレット端末を学校に導入し、授業で活用しています。また、これまで以上に、ICT機器を効果的に使った授業を工夫してまいります。「学校は児童の問題や悩み、トラブルなどを見逃さずに相談にのったり指導したりする」では、「あまりあてはまらない」「あてはまらない」「わからない」が18%と他の項目より高くなっています。より一層児童一人一人に応じた相談体制や指導体制を整備し、保護者からの信頼を得ていく必要があると考えています。

<児童アンケートの状況より>



4～6年児童によるアンケートの全体の評価では、12項目中、10項目で「よくあてはまる」「あてはまる」の評価の合計が80%以上となり、その内8項目で90%以上と、高い評価となりました。

特に、「授業の内容はよくわかる」「友だちと仲良く生活している」「学校の行事は楽しい」などでは95%以上の評価となりました。学校生活での児童自身の達成感があると捉えることができます。中でも「みんなで使うものを大切にしている」は、「よくあてはまる」「あてはまる」が100%と昨年度よりも3ポイント高くなり、児童の規範意識の向上がみられます。

「家で毎日学習している」では、「よくあてはまる」が昨年度より14ポイント増え、「よくあてはまる」「あてはまる」の合計も5ポイント増えました。感染症の影響で在宅時間が増えたことも関係があると思われます。今後も学校と家庭と連携して学習を進めていきたいと考えています。

「学校に行くのが楽しい」については、100%の子どもが肯定的な評価ができることをこれからも目指していきます。

気になるところでは、「先生は悩みなどについて話しやすい」の項目の肯定的な評価が昨年度から9ポイント下がっていることと、「自分の体力づくりに取り組んでいる」「あいさつは元気よくしている」の項目で、「よくあてはまる」が昨年度から2～6ポイント評価が下がっています。次年度に向けて、これまでで

上に子どもたち一人一人に寄り添い、子どもたちの道徳性や健康への意識を高めていけるよう取り組みます。

3 今後の改善方策

- (1) 教員の指導力を高め、授業改善を行い、児童の基礎・基本の力を定着及び学力・体力の向上により、児童の達成感を高める。
 - ・校内研究の充実、算数少人数指導体制の充実、チャレンジ（朝学習）の充実、体育的な活動の充実、ICT機器の活用、家庭学習との連携強化 など
 - ・教員の働き方改革の着実な取組により、授業や子どもと向き合える時間を増やす。
- (2) 一人一人の子どもの状況を把握し、子どもたち同士の人間関係を良好にするために、人権尊重を基本とする教育活動を充実させる。
 - ・思いやりを基本とする学級づくり、道徳科の授業の充実、子どもたちの活躍の場の設定、3つの「あ」（あいさつ、あつまり、あとしまつ）の励行 など
 - ・生活指導や教育相談に対しては、未然防止も含め「迅速・誠実・丁寧」を大切にした対応に努める。
- (3) 保護者・地域との連携を深め、学校・保護者・地域が一体となって教育活動を進める。
 - ・学校公開、学校行事、特別授業などでの地域・保護者との関わりの充実
 - ・学校だより、学年だより、学校ホームページなどでの発信の充実
 - ・保護者会、個人面談、教育相談などでの情報交換の充実